

はじめに

千葉県では、平成20年3月に全国に先駆けて生物多様性地域戦略「生物多様性ちば県戦略」を策定し、その戦略に基づく取組の一つとして、平成20年度から「生物多様性体験学習推進事業」を開始しました。この事業では、学校ビオトープの整備・改修及びその活用を進め、生物多様性の保全・再生の場として、環境学習の場として、また、地域の自然とふれあうための窓口として、次の2つの取組を中心に推進していくこととしています。

- (1) 学校ビオトープの整備、改修及びその活用を支援する「生物多様性体験学習推進事業補助金」により、地域の拠点となる学校ビオトープの整備を推進します。
- (2) 学校ビオトープの実践事例から、整備・活用の手法などを学び、今後の方向性を探る「学校ビオトープフォーラム」を開催します。

本事例集は、平成21年度に事業を実施した12校の実践事例と、平成20年度実施校のうち第2回学校ビオトープフォーラムに御協力いただいた学校の活用状況等を掲載したものです。学校や地域、PTA、NPO団体等が一体となり、学校ビオトープを優れた地域資源ととらえ、積極的に活動しているようすがまとめられています。

本書が、学校ビオトープの整備・活用を目指す団体にとっての先行事例となり、千葉県内の学校ビオトープの整備・活用がさらに進んでいくことを願っています。

ビオトープとは

ビオトープとは、ギリシャ語の「生物」を意味する **Bios** と「場所」を意味する **Topes** を語源としたドイツ語で、直訳すると「生物の生息・生育空間」となります。1990年ごろから盛んに使われるようになりましたが、その概念には様々な考え方があります。

千葉県では、ビオトープを「多様な、または貴重な野生生物が生息・生育する空間であり、その状態を保持または目指して管理される場所」と定義しています。

学校ビオトープフォーラムを開催しました

平成21年度の事業に参加した学校の児童・生徒や教職員を中心として、学校ビオトープの整備・活用方法や課題についてお互いに情報交換し、水辺や植生の管理、観察の方法などについて学ぶ「学校ビオトープフォーラム」を開催しました。

- 1 日 時 平成21年11月28日(土)
午前10時から午後4時
- 2 場 所 千葉県立中央博物館
- 3 参加者数 188名
- 4 内 容

(1) 生態園観覧会

- ア 水辺や池、植生の復元・管理の講習(主に教職員向け)
- イ 生き物観察「森の調査隊」(主に児童・生徒や保護者向け)



児童・生徒は、生態園を活用した自然体験プログラム「森の調査隊」を実施しました。これは、ワークシートを用いて、森の中から自分なりの答えを探し出すゲームです。子どもたちは森の中を楽しみながら歩き、目をこらしながら足元の植物や池の生物を観察し、ワークシートに書き写していました。

(2) 発表会

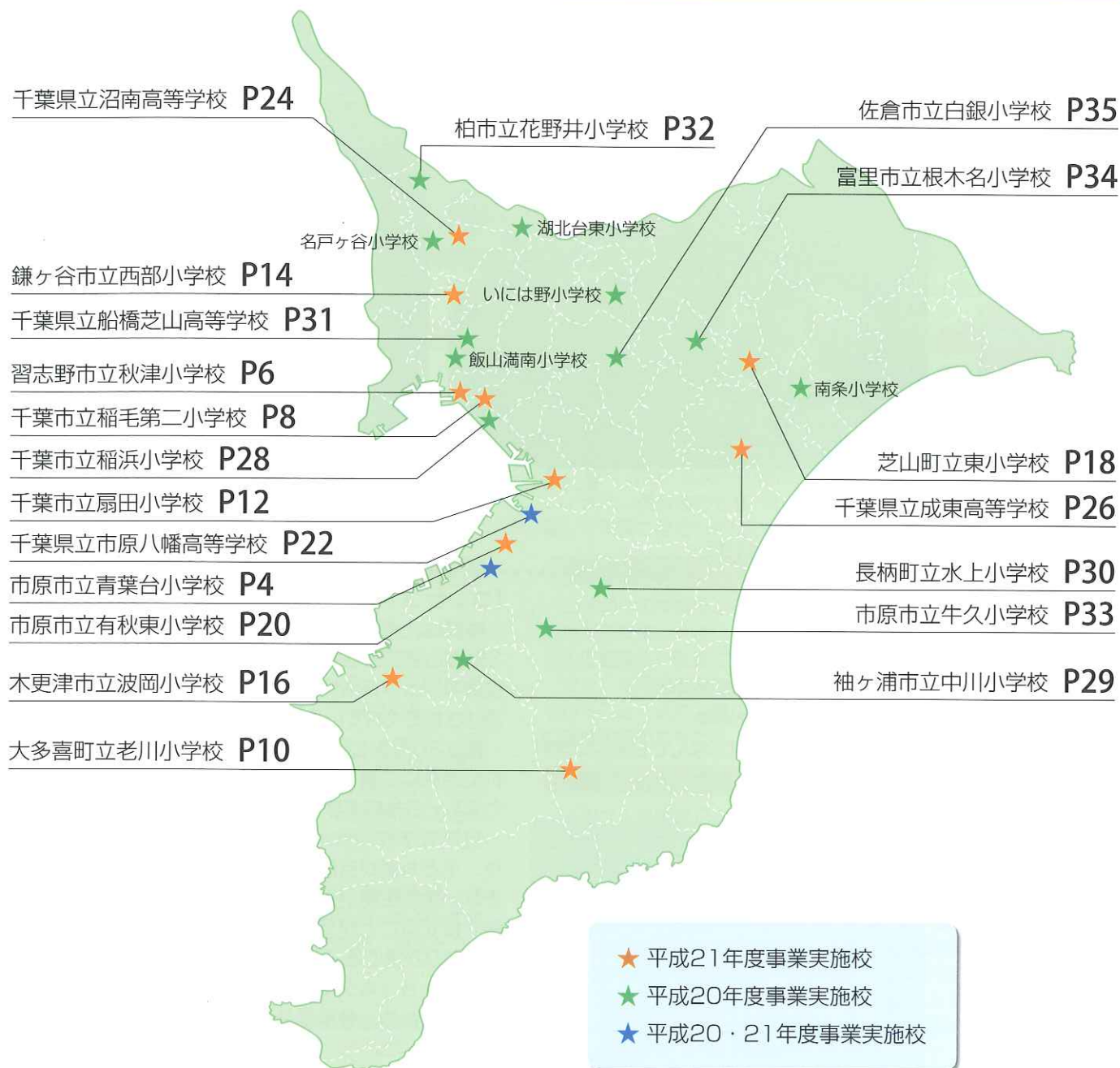
- ア 基調講演「田んぼにすむ小さな生きものたち」
(県立中央博物館 林紀男 上席研究員)
- イ 学校ビオトープの整備や活用のポスターセッションによる事例発表
- ウ 実践校によるステージ発表



ポスターセッションでは、平成21年度に県からの補助金でビオトープの整備・改修及びその活用を行っている12の学校が発表を行いました。

当フォーラムを通して、学校ビオトープの整備・改修及びその活用についての情報を県内の多くの学校が共有することで、ビオトープを利用した環境学習を推進していきます。

CONTENTS



事業実施校一覧

○平成21年度生物多様性体験学習推進事業
小学校9校 高等学校3校 計12校

○平成20年度生物多様性体験学習推進事業
小学校13校 高等学校2校 計15校